

設置の趣旨等を記載した書類（目次）

1. 設置の趣旨及び必要性	3
1) 学校法人順天堂の沿革と建学の理念	3
2) 設置の背景	3
3) 設置の必要性	5
4) 教育研究上の理念及び目的	9
5) 養成する人材像と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	10
2. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称	11
1) 組織構成及び課程名称	11
2) 学位の名称	11
3) 英語名称	11
3. 教育課程の編成の考え方及び特色	12
1) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	12
2) 教育課程の編成の考え方と教育課程の編成	12
4. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件	13
1) 教育方法	13
2) 履修指導の方法	14
3) 研究指導の方法	15
4) 修了要件	18
5) 倫理審査体制	18
5. 基礎となる修士課程との関係	18
6. 大学院設置基準第14条による教育方法の実施	19
1) 修業年限	19
2) 履修指導及び研究指導の方法	19
3) 授業の実施方法	19
4) 教員の負担の程度	20
5) 学生の厚生に対する配慮等	20
6) 入学者選抜の概要	20
7) 必要とされる分野であること	20
8) 教員組織の整備状況	20
7. 入学者選抜の概要	21
1) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	21
2) 入学者選抜の概要	21
3) 選抜体制	22

8. 教育研究実施組織の編成の考え方及び特色	23
1) 教員組織編成の基本的考え方.....	23
2) 教員配置（職位・学位・業績・年齢構成）	23
3) 定年の対象となる教員の取扱い.....	24
9. 研究の実施についての考え方、体制、取組	24
1) 研究の実施についての考え方・実施体制・環境整備について.....	24
2) URA の配置と役割・責任等について	24
10. 施設・設備等の整備計画	24
1) 大学院生の研究室.....	25
2) 講義・演習室.....	25
3) 図書等.....	26
11. 管理運営	27
1) 保健医療学研究科委員会等の組織及び事務組織について.....	27
2) 本研究科の管理運営方法.....	28
12. 自己点検・評価	28
1) 実施方法、実施体制、結果の活用.....	28
2) 評価項目.....	29
3) 結果の公表.....	29
13. 認証評価	29
14. 情報の公表	29
1) 公表の方針・考え方.....	29
2) 公表の方法.....	30
3) Web サイトによる基本情報の公開	30
4) Web サイト、SNS、プレスリリースの積極的活用	44
5) 定期的に刊行している発行物.....	45
6) 講演会・公開講座等の開催.....	46
15. 教育内容等の改善のための組織的な研修等	46

1. 設置の趣旨及び必要性

1) 学校法人順天堂の沿革と建学の理念

学校法人順天堂は、天保9年、学祖・佐藤泰然が江戸・薬研堀に開設した西洋医学塾に端を発し、その後、時代の変遷を先人達の熱意と使命感をもって乗り越え、日本の医学・医療分野の発展に指導的な立場で貢献してきた。現在本学は、医学・医療系学部として、医学部、医療看護学部、保健看護学部、保健医療学部、医療科学部と本年4月開設予定の薬学部の6学部に加えてスポーツ健康科学部、国際教養学部、健康データサイエンス学部の9学部を擁し、大学院は医学研究科（博士課程、修士課程）、スポーツ健康科学研究科（博士前期課程、博士後期課程）、医療看護学研究科（博士前期課程、博士後期課程）、保健医療学研究科（修士課程）と本年4月開設予定の国際教養学研究科（修士課程）の5研究科で、高度な専門教育と研究を行っている。また、大学院附属研究センター（研究所）として、アトピー疾患研究センター、老人性疾患・病態治療研究センター、環境医学研究所、スポーツ健康医科学研究所及びスポーツロジックセンターをはじめ、医学・医療・スポーツ分野の多岐にわたる研究機関を設置している。

医学部附属病院群は、本院としての機能を持つ順天堂医院（東京都）のほか、静岡病院（静岡県）、浦安病院（千葉県）、順天堂越谷病院（埼玉県）、順天堂東京江東高齢者医療センター（東京都）及び練馬病院（東京都）を開設し、6病院総病床数3,559床を擁している。6附属病院は、高度な先進医療から、高齢者医療や精神医療等をカバーし、各附属病院の立地する地域の特性に応じた地域医療の充実を図り、国民の医療ニーズに幅広く対応している。

本学の学是は「仁」である。「人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心。これ即ち仁」。また理念を「不断前進」としている。豊かな人間性と高い倫理観を持ち、最善の医療などのサービスを提供するために、現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力を続けることのできる人材を育成することを目指している。この学是と理念は、自由な競争環境にこそ活気ある教育研究活動が展開されるという建学の精神を伝承し、全くといってよい程に学閥がなく、優秀であれば国籍、性別、出身校を問わず任用するという学風「三無主義」を確立している。順天堂に集う者すべてが、この学風を理解し享受し、自己研鑽、競争原理及び相互信頼の基に順天堂人としての連帯感が涵養され、教育研究臨床活動を着実に実践している。

本学は、5大学院研究科9学部6附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として、医学・薬学・看護・保健・スポーツ・グローバル社会・データ科学等を担う人材を育成し、専門性を活かした教育研究臨床活動を展開して人々の生命や健康を支え、社会の発展に貢献することを目指している。

2) 設置の背景

急速に進む社会の少子高齢化や、人々の生活習慣・生活環境の変化による疾病構造の変化に伴い、医学・医療技術が多様化・専門化するとともに、学術研究の高度化や学際

化が進展し、医学・医療を取り巻く環境は大きな変化をみせている。国民が心身ともに健康で、日々充実した生活を送ることができるためには、医療・介護・福祉等に係る社会的インフラの整備・充実を図るとともに、医療現場や地域社会で国民の健康と生活を支援する医療専門職者が各々の専門性を高めることが不可欠である。

本学は平成 31 年 4 月に保健医療学部を開設し、理学療法学科を設置した。超高齢社会でニーズが高まる理学療法士を養成している。さらには、令和 5 年 4 月に大学院保健医療学研究科理学療法学専攻修士課程を開設し、理学療法学に関する専門的知識や技術の基本的応用能力、および当該分野の諸問題に対して体系的に整理し客観的に分析する能力を持つ人材の養成に着手している。

本学の位置する東京圏においては、特に人口の多い東京 23 区で急速な高齢化が進展している。東京都総務局の「令和 5 年 敬老の日になんだ東京都の高齢者人口（推計）」の概要によると、令和 5 年 9 月 15 日時点の東京都の高齢者（65 歳以上）人口は、311 万 4 千人で、前年と比べ 1 千人増、高齢化率は 23.5% で、前年と比べ 0.1 ポイント上昇、過去最高を更新している。特に、75 歳以上の人口は 176 万 1 千人で、前年と比べ 5 万 7 千人増加している【資料 1】。今後も高齢者人口は増加が続き、2025 年には約 325 万人、2030 年には約 340 万人（高齢化率は 24.3%）、2040 年には約 394 万人（高齢化率は 29.3%）に達すると見込まれている【資料 2】。

【資料 1】 令和 5 年「敬老の日になんだ東京都の高齢者人口（推計）」

【資料 2】 2060 年までの東京の人口推計

高齢者は他の年齢層より加療率が高く、多様な疾病を抱えていることが多いことから、社会の高齢化とともに医療・介護の支援が必要な高齢者は急速に増大する。特に東京都を含む南関東 1 都 3 県では、2040 年ごろに医療需要がピーク迎えると予想されている【資料 3】。

【資料 3】 医療需要ピークや医療福祉資源レベルの地域差を考慮した医療福祉提供体制の再構築

このように近年の高齢化の進展や疾病構造の変化、質の高い医療を求める国民の意識の変化等に伴い、高度な専門知識を有する指導的・高度医療専門職者や、拡大を続ける理学療法学分野における研究を積極的に推進し、質の高い医療の基盤を創造する人材の養成・確保が急務となっている。

具体的には、理学療法分野では、患者の高齢化が進み、中枢神経系疾患や運動器疾患に加えて、循環器疾患、呼吸器疾患、腎疾患といった内科系疾患患者が増加している。それも単一疾患でなく、多疾患・重複障害を合併する患者が増え、複雑な症状を呈する理学療法対象者は少なくない。

少子高齢化の中、労働者人口の確保のためにも、障害を持ちながらも働き続けられることが重要で、労働者のプレゼンティズム（健康の問題を抱えつつも仕事を行っている状態）は、労働生産性を減少させるばかりか、離職や失業につながることから、身体機能を少しでも早く、そしてより高い状態まで回復させたいという患者の期待や社会の要望も高い。

また、医療・介護・福祉サービスの提供体制にも大きな変化が生じており、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が進んでいる。

このように理学療法分野の対象者は多様化・複雑化し、理学療法学の適用範囲も拡大を続けていることから、高度な専門知識を有する指導的高度医療専門職者や、拡大を続ける理学療法学分野における研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造する教育者・研究者が求められている。

高度な研究力と専門性の高い理学療法士が必要とされている一方で、理学療法学に特化した大学院修士課程（博士前期課程）は南関東1都3県でわずかに2校、博士後期課程は南関東1都3県でわずかに1校しか存在しない【資料4】。

【資料4】南関東1都3県の理学療法学科を標榜する大学の大学院設置状況と取得できる学位

3) 設置の必要性

国民の健康水準は、生活の質向上、医療技術の進歩、公衆衛生の進展等により向上しているが、急速な高齢社会の進展、経済の発展やグローバル化等による社会構造の高度化に伴い、人々の生活習慣や生活環境が変化して疾病構造も様変わりし、医療に対する期待や要望も多様化してきている。疾病構造の変化とともに、理学療法学の適用範囲も、急性期・回復期・生活期における肢体不自由児・者の身体機能回復や自立支援に加え、疾病や障害の発症予防、発症超早期からの機能回復と重症化予防、そして再発・再入院予防、疾病管理に至るまで、健康増進、予防、保健活動などにも広がっている。

このような社会情勢のなかでリハビリテーション医療技術を支える理学療法士には、より高度な専門性と実践能力が求められるようになった。

日本理学療法士協会（会員数 136,357 人）の資料【資料5】によると、2023年3月末現在、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の南関東1都3県には、29,046人（21.3%）の会員が在籍している。また、南関東1都3県においても理学療法学科（または理学療法専攻）を標榜する大学の設置も進んでいる。より高度な専門性と実践能力をもつ理学療法士が必要とされている一方で、理学療法学に特化した大学院修士課程（博士前期課程）は南関東1都3県でわずかに2校、博士後期課程は南関東1都3県でわずかに1校しか存在しない。【資料4】大学で「理学療法学」を学び、卒業後、「理学療法学」を極めんとする向学心にあふれた者の修学の機会を十分に確保できていないのが現実である。我が国における理学療法学の向上を図るためにも大学院での理学療法学の修学機会を確保すること、また、理学療法学領域の専門的知識を有し、より高度な理学療法が実践できる人材を育成することは極めて重要と考える。

【資料5】日本理学療法士協会・都道府県別会員数

医療機関や施設から地域に至る様々な場所において、それぞれの場の特性を理解し、個人毎に異なる多様なニーズに対応し、個人の価値観や意思を尊重した理学療法を実践できることが必要とされる。特に「神経理学療法学」、「運動器・スポーツ理学療法

学]、「内部機能障害理学療法学」のような理学療法の基幹領域については、関連他職種と差別化される高度な専門知識と、より質の高い専門的な理学療法の実践能力、そして質の高い理学療法学の基盤を創造する研究・教育力が期待されている。

(1) 神経・運動制御理学療法学領域

超高齢社会とともに、理学療法の対象疾患である脳血管疾患・神経変性疾患・認知症などの中枢神経系疾患の有病率が増大している【資料6】。平成8年は中枢神経系疾患の割合は推計入院患者数の4.5%、推計外来患者数の1.6%であったが、令和2年の推計入院患者数の10.4%、推計外来患者数の2.3%を占めおり、最近24年間でほぼ倍増している。さらに、令和4年国民生活基礎調査では、介護が必要となった主な原因は、多くの要介護度で脳血管疾患と認知症が要因の第1位と第2位を占めている【資料7】。したがって、中枢神経系疾患に対する、効果的でエビデンスの高い理学療法の確立は喫緊の課題である。この重大な課題に対して、神経科学の知識を理学療法学に応用し実践できる人材や、より高度な専門的実践能力、そして質の高い理学療法学の基盤を創造する研究・教育力を持った理学療法士が必要となっている。

また、ヒトの動作は外部からの感覚情報をもとに脳内の知覚・認知過程を得て、運動の制御を行っている。運動制御に対してアプローチする理学療法士としては、機能低下の回復過程や代償的な動作の効率化などの運動制御を熟知することは必須となる。近年では、脳や脊髄への電気刺激などによるニューロモデュレーション治療や、ロボット等を活用したリハビリテーションが発展し、これらの技術を駆使した理学療法の効果検証が求められている。さらに、脳機能イメージング技術による脳機能の解明、センシング技術の発展によるセンサーの小型化や高精度化により、簡易的かつ視覚的にヒトの生体情報を取得でき、バイオメカニクスの観点からも解析が可能となった。

これら高度かつ最先端の技術による運動制御の解明とリハビリテーションへの応用は今後の理学療法分野において必須であり、神経・運動機能制御について、より高度な専門的知識および実践能力、そして質の高い理学療法学の基盤を創造する研究・教育力を持った理学療法士が必要となっている。

【資料6】 推計入院および外来患者数と割合

【資料7】 現在の要介護度別にみた介護が必要になった主な要因

(2) 運動器・スポーツ理学療法学領域

要支援・要介護に至る要因として関節疾患や骨折・転倒といった運動器の障害が上位を占める中【資料7】、2022年に新設された大腿骨近位部骨折患者に対する二次性骨折予防継続管理料では転倒リスク評価やサルコペニア評価、ロコモティブシンドローム評価、転倒予防などが算定要件とされるように、高度な専門知識と質の高い専門的な実践能力を持つ理学療法士が関節疾患や骨折・転倒の予防に貢献することが求められている。

また、要支援・要介護を予防するための健康づくりとして、成人だけでなく高齢者においても有酸素運動や筋力トレーニング、バランス運動などの運動が推奨され【資料8】、性別や年齢、障害等にかかわらず誰もが気軽にスポーツに親しめることが求められており【資料9】、誰もがスポーツに参画でき、ともに安心安全に活動できる社会の実現に高度な専門知識と実践能力を備えた理学療法士が寄与することが期待されている。このような運動器障害の予防やスポーツ参画において理学療法士が科学的根拠を基礎とした活動を行うため、より高度な専門的知識および実践能力、そして質の高い理学療法学の基盤を創造する研究・教育力を持った理学療法士が必要となっている。

【資料8】健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023

【資料9】第3期スポーツ基本計画

(3) 内部機能障害理学療法学領域

2018年12月10日、「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」いわゆる「脳卒中・循環器病対策基本法」が成立し、2019年12月1日に施行された。

循環器病対策基本法の施行を受け、政府は2020年1月17日、「循環器病対策推進協議会」を設置、2020年10月27日には、施策と具体的な目標、達成時期などを盛り込んだ「循環器病対策推進基本計画」を発表。今後は、都道府県ごとの循環器病対策推進協議会の設置と、より具体的な「循環器病対策推進計画」が策定され、2021年度よりその計画が実施されている。特に、2021年以降は、関係諸団体と連携しながら地域の実情に即した脳卒中・循環器病診療の体制構築をすすめ、循環器病対策推進の計画から実行のPDCAサイクルが回り始めている。

2021年3月には日本脳卒中学会と日本循環器学会が「脳卒中と循環器病克服 第二次5カ年計画」【資料10】を発表し、そこでも回復期以降の積極的なリハビリテーションの取り組みが求められていることが明記され、特に「リスク管理の下で急性期から回復期・維持期までを通じた疾病管理とフレイル・サルコペニア・ロコモティブ症候群への理解と介入ができるリハビリテーションスタッフの育成が必要である」と明記されている。

また、呼吸器疾患に関連して、2022年6月、「COPD（慢性閉塞性肺疾患）診断と治療のためのガイドライン第6版」が発刊された。COPDは長期間の喫煙に起因する生活習慣病で、わが国には500万人を超える患者がいると推定されている。2023年度から開始された「健康日本21（第3次）」においても、COPDは対策を講じるべき生活習慣病として取り上げられている。

COPDは多くの高齢者が罹患している疾患でもあり、社会の高齢化により、今後、わが国の医療に大きなインパクトをもたらすことが危惧されているなか、国際的にもエビデンスが認められている「呼吸リハビリテーション」に寄せられる期待は大きい。

また近年、間質性肺疾患（Interstitial lung disease: ILD）患者が急増している。2023年には米国胸部疾患学会（American Thoracic Society: ATS）が成人の慢性呼吸器疾患患者の呼吸リハビリテーションのガイドラインを発表し、COPD患者に加えて、ILD患者や肺高血圧症患者の呼吸リハビリテーションの『エビデンスの強さと勧告』を発表している。高齢患者の多い日本においてもILD患者や肺高血圧症患者の理学療法

のエビデンスの確立が急務になっている。

さらに、近年、糖尿病患者のうち糖尿病性腎症の透析移行を予防するため、医師、看護師または保健師、管理栄養士ならびに理学療法士などが連携して行う医学管理をするための診療報酬の新設、また末期腎不全により透析療法を実施している患者に対し、透析中に病状及び療養環境等を踏まえた療法上必要な訓練等に係わる評価として透析時運動指導等加算が新設されるなど、糖尿病患者の重症化予防または対策を担える理学療法士の養成が急務となっている。とくに、糖尿病腎症や透析患者などを対象とした腎臓リハビリテーションは、世界に先駆けて2018年に日本腎臓リハビリテーション学会より「腎臓リハビリテーションガイドライン」が発刊されるなど、世界をリードする理学療法士の育成が重要となっている。

特に日本のような超高齢社会では単一疾患でなく、多疾患・重複障害患者が増えていることに加えて、心不全患者や呼吸器疾患患者、透析患者など過去には「安静が治療」であった対象でも運動療法が身体機能を改善し寿命を延ばす治療である科学的エビデンスが増加している。このように内部機能障害理学療法の対象者は多様化・複雑化していることから、内部機能障害についてより高度な専門的実践能力、そして質の高い理学療法学の基盤を創造する研究・教育力を持った理学療法士が必要となっている。

【資料10】「脳卒中と循環器病克服 第二次5カ年計画」

本研究科博士後期課程設置に関する入学意向調査結果

2024年1月に、主に南関東1都3県の医療機関等に理学療法士として在職中の方、および本学大学院保健医療学研究科修士課程在学中の学生を対象に本研究科博士後期課程設置に関する入学意向調査を行った【資料11】。その結果、下表に示すように、本研究科博士後期課程への高い進学意向が確認された。

【資料11】順天堂大学大学院保健医療学研究科博士後期課程（仮称）入学意向アンケート調査報告書

入学意向調査概要

- 調査対象： ①順天堂大学大学院保健医療学研究科理学療法学専攻修士課程1年に在籍する大学院生
②理学療法士として在職中の方
- 調査方法： ①順天堂大学の学内WEBシステムにて大学院生に依頼
②郵送調査
- 調査地域： ①順天堂大学（東京）
②理学療法士施設（東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、静岡）
- 配布件数： ①理学療法学専攻1年次在学生19件
②理学療法士所属200施設
※各施設に5部配布
- 有効回答数： ①理学療法学専攻1年次在学生19件
②理学療法士264件
- 回収率： ①理学療法学専攻1年次在学生100.0%
②理学療法士施設26.4%

調査時期： ①2024年1月
 ②2024年1～2月

調査実施機関： 株式会社高等教育総合研究所

本学大学院保健医療学研究科理学療法学専攻修士課程 1年に在籍中の大学院生の進学意向 (n=19)

受験意思 (第一志望)	入学意思	「博士後期課程進学」かつ「第一志望として受験する」かつ「入学する」かつ「修士課程修了後、直ちに進学」
16人 (84.2%)	16人 (100.0%)	5人 (26.3%)

理学療法士として在職中の方の進学意向 (n=264)

受験意思 (第一志望、第二志望、第三志望以降含む)	入学意思	「大学院（修士課程／博士前期課程）」かつ「理学療法士」かつ「第一志望として受験する」かつ「入学する」
72人 (27.3%)	42人 (58.3%)	9人 (26.3%)

以上の入学意向調査の結果や社会的背景を考慮すると、高度な専門知識を有する指導的・高度医療専門職者や、理学療法学分野における研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造する教育者・研究者を養成するため、保健医療学研究科の博士後期課程を設置する必要性は極めて高いと考えられる。

4) 教育研究上の理念及び目的

(1) 教育研究上の目的

本研究科では、学是である「仁」の精神に基づき、国内外を問わず多様な場で社会貢献できる高度な実践能力をもち、理学療法学のあり方を探求することのできる人材の養成を目的とする。

特に本研究科博士後期課程では、専門知識と専門技術、及び高度な研究能力を有し、拡大を続ける理学療法学分野における研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の養成を目的とする。

(2) 研究対象とする学問分野

理学療法学専攻が組織として研究対象とする中心的な学問分野については、リハビリテーション関係の理学療法学とする。

5) 養成する人材像と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

(1) どのような人材を養成するのか

本学は学是「仁」の精神を基に、「不断前進」を教育研究の理念とし、他者を思いやり理解する心・感性を持ち、現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力を続ける人材を育成していくことを目指している。

本研究科博士後期課程では、学是である「仁」の心を兼ね備え、国内外を問わず多様な場で社会に還元・貢献できる専門知識と専門技術、及び高度な研究能力を有し、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の養成を目的とする。

(2) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科博士後期課程における学位授与の方針は以下の通りである。

【理学療法学専攻博士後期課程】

標準修業年限（3年）以上6年以内在籍し、修了要件となる10単位以上を取得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び試験に合格した者に対し、博士（理学療法学）の学位を授与する。

- DP1. 高い専門性と発展的な理学療法学の知識・技術に基づき、新たな理論構築や方法論を展開できる能力
- DP2. 専門的知識・技術を駆使し、自ら研究プロジェクトを高い倫理観を持って厳格に遂行できる能力
- DP3. 研究成果を国内外に発信し、理学療法学の教育・研究の発展に貢献できる能力

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの相関については【資料12】のとおり示す。

【資料12】ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係

(3) 修了後の進路

修了後は医療機関や教育・研究機関が主な進路となる。本研究科博士後期課程入学者には医療機関等で活動する社会人も含まれることが想定されるため、修了後は引き続き所属機関において、または教育・研究機関において、教育・研究の両面で中心的な役割を担うことが期待される。

本研究科博士後期課程設置にあたり、主に南関東1都3県の医療機関等のリハビリテーション室の技士長を対象に、独自の採用意向アンケート調査を実施した。その結果、下表のとおり、本研究科博士後期課程修了者に対する高い採用意向が確認された。

採用意向アンケート調査概要

調査対象： 医療機関のリハビリテーション室技士長

調査方法： 郵送調査
 調査地域： 理学療法士施設（東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、静岡）
 配布数： 理学療法士所属 200 施設
 有効回答数： 理学療法士技士長 95 件
 回収率： 理学療法士技士長 47.5%
 調査時期： 2024 年 1～2 月
 調査実施機関： 株式会社高等教育総合研究所

本研究科理学療法専攻博士後期課程修了者の採用意向（n=95）

採用意向			わからない/ 採用しない
	採用したい	採用を検討したい	
64 件 (67.4%)	23 件 (24.2%)	41 件 (43.2%)	31 件 (32.6%)

本研究科理学療法専攻博士後期課程修了者を採用したい人数（単年度）（n=64）

0 人	1 人	2 人	3 人
28 件 (43.8%)	25 件 (39.1%)	8 件 (12.5%)	3 件 (4.7%)

2. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

1) 組織構成及び課程名称

設置する課程は、順天堂大学大学院保健医療学研究科理学療法専攻博士後期課程とする。これに伴い、順天堂大学大学院保健医療学研究科理学療法専攻修士課程を保健医療学研究科理学療法専攻博士前期課程に変更する。

2) 学位の名称

学位の種別を明確にし、国際通用性を担保するため、学位の名称は「博士（理学療法）」とする。

3) 英語名称

専攻及び授与する学位の英語の名称は以下の通りとする。

専攻の名称	理学療法専攻 博士後期課程	Doctoral Program in Physical Therapy
学位の名称	博士（理学療法）	Doctor of Philosophy (Physical Therapy)

3. 教育課程の編成の考え方及び特色

1) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士後期課程では、基礎とする保健医療学研究科博士前期課程の理学療法学、およびその関連領域における学識をさらに発展させ、高い専門性と発展的な理学療法学の知識・技術に基づき、新たな理論構築や方法論を展開できる能力、専門的知識・技術を駆使し、自ら研究プロジェクトを高い倫理観を持って厳格に遂行できる能力、研究成果を国内外に発信し、理学療法学の研究の発展に貢献できる能力を有することで、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の育成を目的とする。

教育目的を達成するためのカリキュラム・ポリシーは次に示すとおりである。

【理学療法学専攻博士後期課程】

- CP1. 新たな理論構築や方法論の展開に資する高度な専門知識を学び、質の高い理学療法学の基盤を創造する能力を高める。
- CP2. 専門領域の学術研究を積極的に分析し、研究課題に関連した専門的知識や研究遂行技術を学ぶことで高い倫理観を身に付け、自立して研究を行うことができる能力を培う。
- CP3. 研究課題に係わる国内外での学会発表や論文公表等により専門分野の学識を深め、国内外の専門家と積極的に交流し、国際的水準での研究推進や教育の発展に努める。

2) 教育課程の編成の考え方と教育課程の編成

本研究科博士後期課程では、既設研究科と同様に教育課程の編成は学則で定める。

本研究科博士後期課程の教育課程は、学位授与に必要とされる教育目的・目標(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、コースワークの『専門科目』及びリサーチワークの『演習・研究指導』に区分し、それぞれの教育が有機的に連動し、理学療法学専攻における専門性の高い研究を実施する上で、博士前期課程で修得する基礎から応用、博士後期課程での応用から発展に向けて段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるように教育課程を編成する。授業科目構成の関係性はカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーで示す【資料 13】。

【資料 13】カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー

(1) 教育課程の進行に関する考え方

本研究科博士前期課程では、共通科目として配置した「医療倫理学特論」、「医療統計疫学特論」、「機能解剖学特論」、「生理機能画像応用学特論」、「保健医療研究方法論」、「医療教育学特論」、「医療マネジメント学特論」を基礎に、専門基礎科目として、理学

療法学専攻の領域を跨いで「理学療法英語特論」、「理学療法臨床教育学特論」、「リハビリテーション医学特論」を配置している。さらに、「神経理学療法学」、「運動機能制御理学療法学」、「運動器・スポーツ理学療法学」、「内部機能障害理学療法学」の4つの領域の領域に分け、専門領域における講義・演習を行い、高度な専門的知識の修得を図り、2年次には、1年次に修得した専門知識をもとに、研究と修士論文の執筆を本格化し、修士論文を完成させる教育課程を敷いている。

今回設置する本研究科博士後期課程では、学位授与に必要とされる能力を修得するために、博士前期課程の教育課程の上に積み上げる形として、さらに専門性を高めたコースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程を編成する。

理学療法学専攻博士後期課程においては、修士課程や博士前期課程で理学療法学に関連する教育を受けた学生や社会人などに対し、ディプロマ・ポリシー達成に向けて次のような教育課程を編成する。

1. 専門科目

理学療法学の高度専門知識の修得と技術の向上を目的に、理学療法学の中心的な研究領域である「神経理学療法」「運動器理学療法」「内部機能障害理学療法」の最新知見を教授するため、「神経・運動制御理学療法学特講」、「運動器・スポーツ理学療法学特講」、「内部機能障害理学療法学特講」を配置した。これらでは、新たな理論構築や方法論の展開に資する高度な専門知識や治療技術を教授する。また、「神経・運動制御理学療法学特講演習Ⅰ」、「神経・運動制御理学療法学特講演習Ⅱ」、「運動器・スポーツ理学療法学特講演習Ⅰ」、「運動器・スポーツ理学療法学特講演習Ⅱ」、「内部機能障害理学療法学特講演習Ⅰ」、「内部機能障害理学療法学特講演習Ⅱ」では、同じ専門領域の学術研究を積極的に分析することで、研究課題に関連した専門的知識や研究遂行技術を教授する。

2. 演習・研究指導

「神経・運動制御理学療法学特別研究」、「運動器・スポーツ理学療法学特別研究」、「内部機能障害理学療法学特別研究」では、自立した研究者となるための能力を培うため、研究計画から論文作成までの指導を行うとともに、専門分野の学識を深めるため、研究課題に係わる国内外での学会発表や論文公表等を通じて研究遂行技術や研究結果発信技術を教授する。

4. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

1) 教育方法

(1) 配当年次

学年は、前期と後期の2学期制を原則とし、専門科目については、原則として1年次に特講、2年次に特講演習を履修するよう配当する。演習・研究指導については、学生が設定した研究テーマについて長期的に取り組み、研究時間を十分に確保するた

め、1年次から3年次に研究の進捗状況に合わせて配当する。

(2) 授業形態

本研究科博士後期課程における授業は講義、演習により実施する。専門科目の特講については、最新の専門的知識や理論の修得、科学的根拠に基づく理論の構築・実践に重点を置くため、主に講義による授業形態とする。専門科目の特講演習および演習・研究指導については、専門領域における研究課題や国内外の学術研究の分析、事例検討、技術演習、統計調査等を行うため、専任教員指導による演習形式とし、理学療法学研究に関連した専門的知識、問題点の探求、研究遂行技術の修得を目指す。

2) 履修指導の方法

(1) 研究領域の選定

本研究科理学療法学専攻博士後期課程に入学を希望する学生は、出願の段階で専門領域を選択し、出願の前に指導を受けたい研究指導教員を訪問し、次の内容を事前に相談する。本専攻博士前期課程を修了していない入学希望者については、入学後の研究開始時期に遅れが生じないように、十分に面談を行う。

- ・大学院で実施したい研究内容や研究課題、及び研究指導教員の専門性との整合性
- ・研究指導教員の研究指導方針及び方法
- ・研究指導教員の授業時間帯や必要となる出席時間数の目安
- ・履修の全体イメージ
- ・在職者の場合、勤務と受講の両立の可否
- ・その他、本研究科に関すること

なお、事前に研究指導教員を訪問できない場合は、電子メールまたはオンライン会議システム等を利用した相談を受け付ける。

(2) ガイダンスの実施

学生に対して入学時ガイダンスを実施し、本研究科における履修方法を説明し、研究課題、研究計画の概要、博士論文の作成、および学位取得に至るプロセスの理解を図る。

研究指導教員は、学生1人ひとりの志望動機、関心領域、実務経験、研究経験、学問的知識など学生本人と協議検討し、専門領域ごとあるいは個別に履修指導を行う。研究指導教員は、学生の研究課題を解明する過程を指導し、研究の実施、博士論文の作成、発表を支援し、個々の学生に対して研究指導の責任を負う。他のすべての科目担当教員は、必要に応じ、学生の研究課題解明に必要とされる相談に応じる。また科目担当教員は、特別研究を除くすべての開講科目についてシラバスを準備し、学生の自己の研究課題解明に効果的な科目を選択できるようにする。さらに授業は学生の研究への興味や関心を喚起できるような形態を取り入れる。これらにより学生の知的好奇心を涵養でき、研究の進展に資することが可能になる。

(3) 履修モデルの提示

専門領域ごとの履修モデルを設定し、効率的・効果的な学修指導を行う【資料 14】。

【資料 14】 理学療法学専攻履修モデル

(4) シラバスの作成

全ての授業科目においてシラバスを作成し、各授業科目の概要、ディプロマ・ポリシーとの関連、到達目標、講義内容、授業方法、予習・復習、成績評価の方法と基準、教科書及び参考図書等を記載し、学生に明示する【資料 15】。

【資料 15】 保健医療学研究科理学療法学専攻博士後期課程シラバス（一部抜粋）

3) 研究指導の方法

研究指導教員は学生が博士の学位を円滑に取得できるよう、次のとおり論文作成指導を行う【資料 16】。当該スケジュール通りに進めることを原則とするが、研究内容・研究指導計画の決定に時間を要する場合には、研究計画書の提出時期を猶予するなど柔軟に対応する。

【資料 16】 研究指導スケジュール

(1) 履修指導及び研究課題の決定（1年次4月～5月）

(ア) 研究指導教員は、学生との面談に基づき履修指導を行う。

(イ) 研究指導補助教員は、研究指導教員と協議により決定する。

(ウ) 学生のこれまでの研究実績と研究領域、履修科目から、研究課題を焦点化する。さらに学生が希望する研究課題に対して、研究指導環境を考慮し、学生と協議しながら研究課題を決定する。

(2) 研究計画の立案及び指導、研究計画書の提出（1年次5月～7月）

(ア) 学生は決定した研究課題について文献考証を進め、研究指導教員は、研究課題の科学的妥当性、実行可能性等から学生の研究計画の立案を指導する。

(イ) 学生は「博士後期課程研究計画書・研究指導計画書」を研究科委員会に提出する【資料 17】。「博士後期課程研究計画書・研究指導計画書」は、論文表題、問題の起案とそれに至った根拠（主に主要な研究文献）、研究計画、研究方法等を要約しまとめたものとする。研究指導教員は研究指導計画を記載する。

(ウ) 研究科委員会は「博士後期課程研究計画書・研究指導計画書」を確認し、必要に応じて研究計画の課題、今後の課題などについて指導を行う。

【資料 17】 博士後期課程研究計画書・研究指導計画書

(3) 研究倫理審査（1年次7月～9月）

(ア) 学生は研究開始前に、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する規程」

及び「順天堂大学大学院保健医療学研究科及び保健医療学部に係る研究等に関する倫理委員会規程【資料 18】」に基づき、倫理的側面から本学倫理委員会の審査を受ける。

(イ) 申請者は本学倫理委員会に必ず出席する。

【資料 18】 順天堂大学大学院保健医療学研究科及び保健医療学部に係る研究等に関する倫理委員会規程

(4) 研究の遂行及び指導（1年次9月～）

(ア) 本学倫理委員会で研究計画が承認された後、学生は、研究指導教員および研究指導補助教員から助言・指導を受けながら研究計画に従い研究を遂行する。

(イ) 指導教員は、研究の進捗確認・文献抄読等を行うほか、研究遂行に関わる全般的な指導を行い、研究の進捗を管理する。

(ウ) 研究指導教員及び研究科委員会は、1年次2月に「研究進捗状況報告書」から学生の研究進捗状況を確認し、学生の研究の進捗状況に応じた指導を行う。

(5) 主査及び副査の決定（2年次7月）

(ア) 研究科委員会は、研究指導教員の推薦に基づき、論文審査委員として主査1名、副査2名を人選し、研究科委員会で決定する。

(イ) 論文審査委員のうち、主査は研究指導教員以外の本研究科の教授、副査は本研究科の専任教員とする。副査は、原則として、研究指導補助教員と同等以上の能力を有する教員とし、当該学生の博士論文の領域に対応した研究指導教員以外の教員とすることで、学位の質を担保する。

(6) 研究経過発表会（中間発表会）（2年次2月）

(ア) 研究科委員会は、研究の進捗や研究成果の確認を目的に、学内で中間発表会を開催する。

(イ) 学生は研究進捗状況報告書を提出し、研究経過発表会（中間発表会）で報告する。

(ウ) 主査及び副査は、発表内容に関わる問題点等を指摘・助言する。また、研究指導教員は、主査及び副査から指摘された問題点等の解決方法についての指導を行う。

(7) 博士論文の作成及びその指導（2年次3月～）

(ア) 学生は、中間発表までの研究成果をもとに博士論文の作成を開始し、発表会での質疑、主査及び副査からの指摘を踏まえ、博士論文をまとめる。

(イ) 研究指導教員は、学生の博士論文について、論文の全体構成、資料・データの整理法、図・表の作成など、論文完成までの指導を行う。

(ウ) 研究成果発表（学会発表、学術誌への投稿）を積極的に行うように指導する。

(8) 予備審査会（3年次8月）

- (ア) 研究科委員会は、主査・副査による予備審査会を開催する。修了要件である単位の取得見込み状況、国内外の学会での発表および学術誌への投稿状況（掲載受理見込み）、学位申請にする研究の進捗状況と論文作成状況の説明を受け、最終提出までの論文作成について助言する。

(9) 博士論文審査申請（3年次11月）

- (ア) 学生は、完成させた博士論文を所定の期日（11月中旬）までに提出する。
(イ) 博士論文審査願に論文目録、論文要旨、履歴書などを添えて研究科長に提出する。

(10) 博士論文の審査と最終試験（3年次11月～1月）

- (ア) 主査及び副査は、提出された博士論文を「**学位論文審査基準**」を基に審査する。
(イ) 論文の内容及び専門領域に関する最終試験（口頭試問）を行い、博士論文および最終試験（口頭試問）の評価について審議する。

(11) 博士論文最終審査会（3年次2月）

- (ア) 研究科委員会は、主査及び副査による博士論文の審査結果及び最終試験（口頭試問）の判定結果並びに当該学生の単位取得状況により、博士後期課程修了の可否を判定する。
(イ) 最終審査会では、博士論文審査結果を主査から報告し、研究科委員会構成員による可否投票により、出席委員の3分の2以上の「可」票をもって「合格」と認定される。

(12) 博士論文発表会（3年次2月）

- (ア) 最終審査会にて合格と認定された学生は、博士論文の発表を行う。

(13) 博士後期課程の修了及び学位の授与（3年次3月）

- (ア) 研究科委員会において学位授与を可とした者について、研究科長は学長に報告し、学長は「博士（理学療法学）」の学位授与を決定する。
(イ) 学位の授与は学位記を交付して行う。

「学位論文審査基準」

博士論文の審査は以下の基準に基づき主査、副査（2名）によって行うこととする。なお、論文を提出し学位を受けようと希望する者は、所定の単位を取得（またはその見込み）していなければならない。また、博士論文の審査において、国内外の学会での発

表及び査読付き学術誌への投稿が掲載受理されていることを条件とする。学術誌に投稿した論文を博士論文とする場合は、原著論文でなければならない。

- ① 理学療法学に関する先駆的又は独創的な研究であるか。
- ② 理学療法学の発展に貢献し、将来人々の健康・福祉に貢献できる研究内容であるか。
- ③ 研究計画が適切に設定され、論旨の一貫性など高い論証性を備えているか。
- ④ 高い倫理観を持って研究を実施しているか。
- ⑤ 研究データ・結果を客観的に正しく評価し、適切な考察が行われているか。
- ⑥ 研究によって得られた成果に今後の学問的発展性があるか。

4) 修了要件

本研究科理学療法学専攻博士後期課程に3年以上在学し、10単位以上（専門科目の特講2単位以上、特講演習Ⅰ・Ⅱ4単位以上、および演習・研究指導4単位）修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で博士論文を提出し、博士論文の審査及び最終試験に合格した場合に、博士（理学療法学）の学位を授与する。

5) 倫理審査体制

学生は研究開始前に、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する規程」及び「順天堂大学大学院保健医療学研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程」に基づき、倫理的側面から本学倫理委員会の審査を受ける。【資料18】

5. 基礎となる修士課程との関係

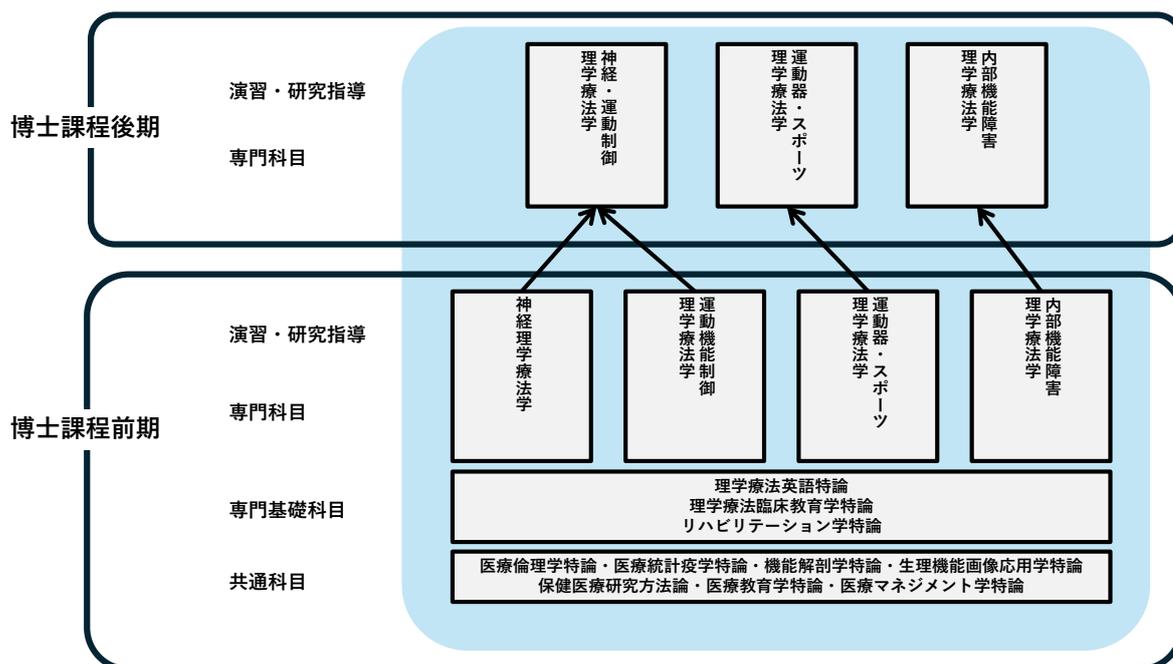
本研究科博士後期課程は博士前期課程を基礎として、理学療法学における学識をさらに発展させ、国内外を問わず多様な場で社会に還元・貢献できる専門知識と専門技術、及び高度な研究能力を有し、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の養成を目的として開設する。

博士前期課程と博士後期課程の関係では、博士前期課程教育の延長として教育課程を編成している【資料19】【資料20】。

【資料19】 基礎となる博士前期課程との関係図

【資料20】 博士前期課程の3つのポリシーとの対比

保健医療学研究科理学療法学専攻



6. 大学院設置基準第14条による教育方法の実施

本研究科では、社会人が在職のままで修学することができるよう、大学院設置基準14条に基づく教育を行う。

1) 修業年限

修業年限は3年とし、在学年数は6年を超えることはできない。

2) 履修指導及び研究指導の方法

学生の研究指導教員を決定し、担当教員は学生が適切な教育を受けられるように履修計画及び研究課題を設定する。研究指導教員は研究課題についての研究計画の立案、研究計画に基づく研究の遂行、博士論文作成～完成に至るまで学生指導を行う。

3) 授業の実施方法

保健医療学部の授業が1～5限に設定されていること、また本研究科学生の多くは社会人であることが想定されるため、以下の通り授業時間を設定し開講する【資料21】。必要に応じて土曜・日曜にも授業等を行う。

平日 6限 18:10～19:40

7限 19:50～21:20

【資料21】時間割案

遠隔授業等の活用

本研究科の授業は、原則、教室等において対面で行うことを想定しているが、新興感染症などの感染拡大に伴う外出自粛や、社会人学生が就労上の都合で対面授業に参加できない場合などを踏まえ、授業担当教員がオンライン上での出席管理や確認的な課題の提出などにより、当該授業の実施状況を十分把握していること、学生一人一人へ確実に情報を伝達する手段や、学生からの相談に速やかに応じる体制が確保されていることを条件に、ICTを活用した遠隔授業を活用できることとする。また、一部オンデマンド形式も活用する。

遠隔授業の実施に当たっては、学生の通信環境に十分配慮するとともに、学生の通信環境や学内・地域の通信量等を踏まえつつ、通信回線への負荷に配慮した授業方法の組合せや、画質調整等によるオンライン教材の低容量化、教材のダウンロードを回線の比較的空いている時間帯に指定するなどの工夫を行う。

原則、講義内容は録画し、オンデマンド動画の視聴を可能とし、講義後に繰り返し復習できるようにする。

4) 教員の負担の程度

本研究科教員は保健医療学部との兼担である。教員の授業科目の担当量を調整し、研究時間の確保に務めつつ、過度の負担にならないように授業を計画する。

5) 学生の厚生に対する配慮等

本郷・お茶の水キャンパスには学術メディアセンターがあり、平日は夜間まで、また土曜・日曜も開館している。本研究科学生も学術メディアセンターを利用でき、自己学習や文献検索が可能である。

6) 入学者選抜の概要

入学者選抜の方法は一般選抜のみとし、社会人も一般選抜に含め、同一の基準で選考する。詳細は「7. 入学者選抜の概要」に記載する。

7) 必要とされる分野であること

理学療法分野の対象者は多様化・複雑化し、理学療法学の適用範囲も拡大を続けていることから、専門知識と専門技術、及び高度な研究能力を有し、拡大を続ける理学療法学分野における研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材が求められている。

8) 教員組織の整備状況

本研究科の教員は、基礎となる保健医療学部・大学院保健医療学研究科博士前期課程の教員を専任教員として配置する。大学院教育の趣旨と大学院設置基準および関係法令に従うとともに、大学院教育の中で必要な教員は理学療法学の各領域において教育実績、研究業績、実務経験について高いレベルを有する専任教員を配置することを

基本とする。

7. 入学者選抜の概要

1) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【理学療法学専攻博士後期課程】

入学者受入れ方針

理学療法学専攻博士後期課程は、学是である「仁」の心を兼ね備え、国内外を問わず多様な場で社会に還元・貢献できる専門知識と専門技術、及び高度な研究能力を有し、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材を養成することを目的としている。そのため、次のような志のある人物を求める。

求める学生像

- AP1. 博士前期課程等で修得した専門領域の基盤となる知識・技能、柔軟な思考力と倫理観を兼ね備えている人
- AP2. 豊かな人間性と強い探求心をもち、理学療法学分野の発展のため、自立して研究に取り組む姿勢がある人
- AP3. 理学療法学分野に高い知的関心を持ち、最先端の研究に目を向け、研究をやり遂げ、研究成果を国内外に発信する英語力のある人
- AP4. 博士後期課程で修得した高度な教育研究能力を活用し、理学療法学の発展に貢献する強い意志のある人

2) 入学者選抜の概要

本研究科理学療法学専攻博士後期課程の入学募集人員は 4 名である。出願資格は以下のいずれかに該当する者とする。

- (1) 修士(理学療法学に関連する分野)の学位を有する者
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項により修士(理学療法学に関連する分野)の学位を授与された者
- (3) 外国において修士(理学療法学に関連する分野)の学位に相当する学位を授与された者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 本大学院が個別の入学資格審査により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で 24 歳に達した者

入学者選抜を行うにあたって、出願の前に研究指導教員を訪問し、研究内容や研究課題、在職者の場合は勤務と受講の両立の可否、履修の全体イメージ等について、教

員との十分な相談を行う機会を設ける（4. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件、2）履修指導の方法（1）研究領域の選定、参照）。

入学試験は毎年2回実施する。試験日については受験者の利便を考慮し、土曜日または日曜日に実施し、アドミッション・ポリシーに掲げる国内外に発信する英語力を測定するために語学試験（英語）を、専門領域の基盤となる知識・能力、思考力、自立して研究に取り組む姿勢・意欲を評価するために面接試験を課す。入学者選抜の方法は一般選抜のみとし、社会人も一般選抜に含め、同一の基準で選考する。一般選抜は、本研究科博士前期課程の学生をはじめ、他大学出身者及び社会人などのうち、出願資格を満たす者を対象に広く募集する。アドミッション・ポリシーに準じて合格者を選抜し、社会人に対する入学試験における配慮は行わないが、社会人が学びやすい環境・制度を整えて、大学院設置基準第14条特例による柔軟な開講時間など入学後の配慮を行う。

試験科目等	語学試験（英語）	面接試験	合計
配点	100点	100点	200点

面接評価基準（6段階評価）

- ・本専攻の志望動機が明確であるか
- ・入学後の研究ビジョンが明確であるか
- ・専門領域の基盤となる知識・能力を有しているか
- ・研究テーマと研究計画が明確であり、実行可能性はあるか
- ・研究テーマに関連する基礎的な知識を有しているか
- ・研究を遂行する上での柔軟な思考力を有しているか
- ・学習意欲と研究マインドを有しているか

※社会人の場合は以下についても面接を通じて確認する

- ・本専攻で学修することに対する職場からの理解度
- ・教育指導歴および論文業績

3) 選抜体制

(1) 入学者選抜に係る組織

本研究科の入学試験に関する方針及び選考方法等に関する審議は、本研究科教員で構成する「保健医療学研究科入試委員会」において行う。入試委員会は、研究科長を委員長とし、教授職及び准教授職の中から研究科長が指名する教員をもって構成し、入学条件の設定、入試問題の選定、入学試験の実施及び入学者選考等を行う。

(2) 入学試験の実施と入学者の決定

本研究科における入学試験の実施は、入試委員会が行う。入試実務については、本郷・お茶の水キャンパス事務室（保健医療学研究科担当）が研究科長の指示を受けて担当す

る。入学試験の成績判定は、入試委員会にて選考し、研究科委員会の議を経て学長が決定する

8. 教育研究実施組織の編成の考え方及び特色

1) 教員組織編成の基本的考え方

本研究科の教員は、基礎となる保健医療学部・大学院保健医療学研究科博士前期課程の教員により構成する。本研究科においては、大学院教育の趣旨と大学院設置基準および関係法令に従うとともに、大学院教育の中で必要な教員は理学療法学の各領域において教育実績、研究業績、実務経験について高いレベルを有する専任教員を配置することを基本とする。

専門科目の特講・特講演習は専任教員が担当することとする。

演習・研究指導の特別研究は、研究指導教員が学生の研究指導にあたる。また、必要に応じて研究指導補助教員が研究指導教員の指導のもと、学生の研究支援、指導を行う。

個々の教員の配置にあたっては、学位のほか、それぞれの専門領域における十分な教育実績・研究業績、臨床などの実務経験などと担当授業科目との適合性について検討を行い、担当教員を配置した。

専任教員は、博士前期課程における教育を兼務する関係から、博士前期課程修了後すぐに博士後期課程に入学する学生に対しては、連続性のある教育・研究指導が可能である。また、社会人学生に対しては、実務経験のある教員を配置することで、適切な教育・研究指導を行うこととする。

2) 教員配置（職位・学位・業績・年齢構成）

理学療法学専攻の教員組織は、いずれも理学療法士または医師の免許を取得している専任教員 12 人で編成する。職位は教授 5 人、准教授 5 人、講師 2 人を配置する。専任教員 12 名は全員が博士の学位を有している。教授の平均年齢は 57.4 歳、准教授は 46.4 歳、講師 49 歳であり（2028 年 3 月時点）、特定の年齢層に偏ることのないよう教員の配置を行った。

[専任教員の職位別年齢構成]

【理学療法学専攻】

	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	合計
教授		2 名	2 名	1 名		5 名
准教授	4 名	1 名				5 名
講師	1 名	1 名				2 名
合計	5 名	4 名	2 名	1 名		12 名

3) 定年の対象となる教員の取扱い

本学では「順天堂大学教職員就業規則」で教員の定年を満 65 歳と定めており、博士後期課程完成年次までに 1 人が定年の対象となるが、これらの教員については、博士後期課程完成年次まで定年を延長することとする【資料 22】。

【資料 22】 順天堂大学教職員就業規則 抜粋

9. 研究の実施についての考え方、体制、取組

1) 研究の実施についての考え方・実施体制・環境整備について

本研究科では、理学療法学分野における研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造し、広く国民へ還元することを目指す。研究推進を実現するために、本研究科大学院検討委員会が中心となり、本研究科の基礎となる保健医療学部研究委員会と連携して研究活動に関する事項や研究機器の整備に取り組む。本研究科の基礎となる保健医療学部と研究機器・装置を共有し、大学院生が学内で研究活動を行える体制を整備する。

医学部附属病院のリハビリテーション室と連携して人事交流を図り、円滑に研究活動が推進できる環境を整える。先進的・独創的な研究を推進するため、大学院医学研究科と連携しながら、基礎から臨床まで幅広く研究対象として治療法・予防法の確立に取り組んでいく。

大学としての研究支援を図るため、学長裁量による若手プロジェクト研究、競争的研究申請のためのプロジェクト研究、臨床研究支援プロジェクト研究、教育改善プロジェクト研究、リスタートアッププロジェクト研究などを学長プロジェクト研究として、学長のリーダーシップにより、研究推進を積極的に進めるなどの体制を整備している。

2) URA の配置と役割・責任等について

本学 URA (University Research Administrator) は、研究実績があり、学位 (博士) を有する者を任用し、3 名の無期雇用 URA と 1 名の有期雇用 URA を大学本部 (研究戦略推進センター・健康総合科学先端研究機構) に配置している。本学 URA の役割は、研究支援により、研究者の研究時間の確保につながり、研究力が強化されることを想定している。また URA が責任をもって支援が行えるよう、「リサーチ・アドミニストレーター (高度学術専門職員) に関する規則」を整備する等、機関体制を整備している。

10. 施設・設備等の整備計画

1) 大学院生の研究室

本研究科理学療法学専攻博士後期課程は、入学定員4名、収容定員12名の規模で開設する。基礎となる学部である保健医療学部の校舎は、JR御茶ノ水駅から徒歩7分に位置する御茶の水センタービル及び診療放射線学科実習棟である。御茶の水センタービルには、講義室、演習室、実習室、実習用機器・備品が整備されており、本研究科においても各施設を保健医療学部と共用する。施設・設備等の利用については、学部の授業が終了する18時以降とし、本研究科の授業も原則として18時以降開始とする。

本研究科博士後期課程学生の自習室については、診療放射線学科実習棟の2階を整備し、机とパーソナルコンピューターを40席分、プリンター2台を用意する【資料23】。御茶の水センタービル2階および7階のロッカー室内に研究科学生の個人用ロッカーを割り当てる。御茶の水センタービル及び診療放射線学科実習棟共に全館Wi-Fi環境が整っており、ハード面においても学生の研究活動を支援する環境が整備されている。

【資料23】大学院生研究室

2) 講義・演習室

本専攻の授業は、保健医療学部と共用する御茶の水センタービルで行い、学部の授業が終了する18時以降の利用とする。講義（特講）は主に御茶の水センタービル4階の小講義室、演習（特講演習Ⅰ・Ⅱ）は同3階のゼミ室で実施する。小講義室には75型ディスプレイ、ゼミ室には65型ディスプレイが常設されており、授業を実施・運営する環境が整備されている。演習・研究指導（特別研究）については同8・9階の実習室を使用する。8・9階の実習室には神経・運動制御理学療法学領域での研究に必要な三次元動作解析装置（VICON V8）や筋電図計測装置（DELSYS EMG SYSTEM）、運動器・スポーツ理学療法学領域での研究に必要な超音波画像診断装置（シーメンス社製、ACUSON Juniper）や筋機能解析装置（Isokinetic Medical社、イージーテックプラス IP-ETGENU3）、内部機能障害理学療法学領域での研究に必要な心電図運動負荷モニタリングシステム（MLX-1000H）や呼気ガス代謝モニター（Cpex-1F）が備え付けられている。本専攻は夜間開講であり、設備、機器及び備品を共有する保健医療学部の授業時間割は18時で終了するため、夜間開講である本専攻の教育研究には支障がない。また、本専攻博士前期課程とは授業時間割が重ならないように調整するため、同じく本専攻博士後期課程の教育研究に支障はない。

主な設備・機器・備品

授業科目	場所	機器・備品
講義 （特講）	御茶の水センタービル 4階小講義室	75型ディスプレイ
演習 （特講演習Ⅰ・Ⅱ）	御茶の水センタービル 3階ゼミ室	65型ディスプレイ
演習・研究指導	御茶の水センタービル	神経・運動制御理学療法学領域

(特別研究)	8・9階実習室	<ul style="list-style-type: none"> ● 三次元動作解析装置(VICON V8) ● 筋電図計測装置 (DELSYS EMG SYSTEM)
		運動器・スポーツ理学療法学領域 <ul style="list-style-type: none"> ● 超音波画像診断装置 (シーメンス社製、ACUSON Juniper) ● 筋機能解析装置 (Isokinetic Medical 社、イージーテックプラス IP-ETGENU3)
		内部機能障害理学療法学領域 <ul style="list-style-type: none"> ● 心電図運動負荷モニタリングシステム (MLX-1000H) ● 呼気ガス代謝モニター (Cpex-1F)

3) 図書等

本学は4つのキャンパスにそれぞれ学術メディアセンターを設置している。本研究科の所在する本郷・お茶の水キャンパスにある学術メディアセンターは本館としての機能を持っている。学生の自学自習をサポートするため、土曜日、日曜日も開館している。平日は午前8時30分より午後11時迄開館している。また学術メディアセンターの蔵書については、オンラインでの検索が可能である。

4キャンパスの学術メディアセンターは、自然科学では医学・医療・スポーツ・看護・理学療法・診療放射線、人文・社会科学では国際・言語・一般教養を中心に、和書・洋書の学術情報を収集している。蔵書数は既存キャンパスの合計で、令和4年度(2022年度)末で301,912冊、うち105,075冊が外国書である。学術雑誌は自然科学を中心に人文・社会科学を含む全ての学問分野で、既設キャンパスの合計で冊子体5,381タイトルを所蔵している。蔵書は図書・雑誌ともに、毎年度に定期的な整備を行っている。本学部でも既設キャンパスが所蔵する図書及び雑誌を利用でき、本学学内専用便や郵送により貸出を行っている。利用が終わった図書及び雑誌については、どこの既設キャンパスからでも返却可能となっている。本研究科博士後期課程においては、理学療法学分野を中心とした図書を保健医療学部・保健医療学研究科博士前期課程と共有し、本研究科学生の学修に資する【資料24】。

【資料24】学術雑誌一覧

学術情報は、本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンターを中心として、冊子体から電子へと資料媒体の切り替えを積極的に進めている。電子ジャーナルを46,557タイトル、電子書籍を13,417タイトル契約しており、リンクリゾルバによる文献情報のナビゲートを提供している。これらの多くは全キャンパス・全附属病院のみならず、自

宅等の学外からも閲覧可能である。電子情報は学術メディアセンターのウェブサイトに集約しており、「電子ジャーナル・電子書籍リスト」と「資料検索」から検索して閲覧できる。

電子ジャーナルは、医学分野の主要なデータベースである「PubMed」と「医中誌 Web」等の検索結果に本学専用のリンクを設定して、雑誌文献へのアクセスの便宜を図っている。購読するジャーナルは定期的に研究室・教員に購読アンケートを取り、学術メディアセンター運営委員会において見直しを行っている。医学・薬学分野の国内誌として、「医書.jp オールアクセス」と「メディカルオンライン」等を契約している。

電子書籍は、シラバスに掲載された教科書や参考図書を中心に、語学学習・就職活動・教養等を契約している。

データベースは、本学の強みである医学・診療支援・スポーツ科学・看護学系の自然科学のデータベースをはじめとして、人文・社会科学等の幅広い分野を網羅する学術情報全文データベース（「ProQuest Central」、「Academic Search Complete」等）を契約している。引用索引データベースは、「Web of Science」と「Scopus」の両方を契約している。また辞典・事典、新聞・雑誌記事データベース等を契約しており、調査・研究活動を支援している。

本学が所蔵・契約していない資料は、他大学図書館との相互協力（国立情報学研究所の NACSIS-ILL、日本医学図書館協会等）により、文献複写や現物貸借の相互協力を行っている。令和 4 年度（2022 年度）の既設キャンパス合計実績は、他大学からの複写依頼が 2,096 件、他大学への複写依頼が 1,422 件であり、本学から他大学への提供実績が上回っている。研究の高度化に伴い、国内で入手できない外国文献利用の要望に際しては、海外文献提供サービスの利用が可能である。

11. 管理運営

本学は教育・研究に関して、全学に共通する事項を審議する機関として、順天堂大学大学協議会を設置し、学長を議長とし、各大学院研究科研究科長、各学部学部長、その他を委員として運営している。

1) 保健医療学研究科委員会等の組織及び事務組織について

各大学院研究科の運営について協議する機関として、各大学院研究科に研究科委員会を設けている。研究科委員会の組織及び運営等必要な事項について順天堂大学大学院学則に定める。

博士後期課程設置後は、既存の保健医療学研究科委員会が運営を行う。

本研究科の管理運営をサポートする事務局は、本郷・お茶の水キャンパス事務室が担当する。同事務室は本研究科の教務事務、授業管理及び教員の教育・研究活動支援業務を行うとともに、学生の福利厚生、奨学金等についても担当し、円滑な学生生活を支援

する。

2) 本研究科の管理運営方法

(1) 研究科委員会

①本研究科委員会は次の委員により構成される

- (ア) 本研究科長
- (イ) 教授（特任教授を含む）
- (ウ) 先任准教授

②研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- (ア) 学生の入学及び課程の修了に関する事項
- (イ) 学位の授与に関する事項
- (ウ) その他、教育研究に関する重要な事項で学長が定めるもの

③研究科委員会は、前項に掲げる事項のほか、当該研究科の教育研究に関する事項について審議し、学長に意見を述べるができる。

④研究科委員会は毎月1回（8月は除く）開催し、研究科委員会の議長は研究科長があたる。

⑤研究科委員会は、次の事項を審議する。

- (ア) 入学・休学・復学・退学・除籍・転学及び賞罰に関する事項
- (イ) 試験に関する事項
- (ウ) 学位論文審査に関する事項
- (エ) 学科課程に関する事項
- (オ) その他研究科の学事に関する事項

⑥研究科長は研究科委員会で審議された事項を学長に報告し、学長の決裁を経て必要な事項を公表する。

⑦研究科委員会を円滑に運営するために研究科委員会の下に大学院検討委員会、入試委員会を置く。

12. 自己点検・評価

本学では、『内部質保証に関する方針』、『内部質保証に関する規程』及び『自己点検・評価に関する規程』に基づき、教育研究等の状況について、毎年度、自己点検・評価を行っている。

1) 実施方法、実施体制、結果の活用

自己点検・評価は、内部質保証の一連のプロセス（前年度の取組から課題を見出し、解決に向けての取組及びスケジュール案の企画・設計(P)、改善に向けた具体的な取組

(D)、取組成果の検証(C)及び次年度に向けての取組の方向性を定める(A))のうち、取組成果の検証(C)に位置づけられる。本学では、「学長」の下に内部質保証の推進に責任を負う組織として「内部質保証推進委員会」を置き、同委員会に内包する形で全学的な自己点検・評価を行う「自己点検・評価運営委員会」を置いている。毎年度部門レベル(学部、大学院研究科、医学部附属病院及び大学管理部門)で自己点検・評価を実施し、評価結果の取りまとめは「自己点検・評価運営委員会」及び「内部質保証推進委員会」での審議を経て、「学長」に報告される。「学長」は、その報告を受け、改善を要するとした事項について当該部門に改善の指示を行う。当該部門では、必要な場合は「内部質保証推進委員会」の支援を受け、改善策を策定し、改善を実施する。改善結果は「内部質保証推進委員会」を通じて、「学長」に報告されるという改善サイクルとなっている。また自己点検・評価及び内部質保証について、客観性・妥当性・有効性を高めるために、学外有識者からなる「外部評価委員会」による評価を受ける。

学長の下で全学的な教学マネジメントが有効に機能するように上述の3つの委員会がそれぞれの役割を果たすことにより、大学全体として適切な点検・評価が実施され、必要な改善活動のサイクルが回り、本学の教育研究等の改善・向上が図られるようになっている。

2) 評価項目

評価項目は、公益財団法人大学基準協会の大学基準に則して、(1)大学の理念・目的に関すること、(2)内部質保証に関すること、(3)教育研究組織に関すること、(4)教育課程・学習成果に関すること、(5)学生の受入れに関すること、(6)教員・教員組織に関すること、(7)学生支援に関すること、(8)教育研究環境に関すること、(9)社会連携・社会貢献に関すること、(10)大学運営・財務に関することとしている。

3) 結果の公表

自己点検・評価報告書は、冊子として刊行するとともに、本学ホームページにも公開し、社会的説明責任を果たしている。

13. 認証評価

学校教育法第109条に定める認証評価については、公益財団法人大学基準協会による大学評価を7年毎に受審している。直近では、2023年10月に受審している。結果は、2024年3月に公表する予定である。

14. 情報の公表

1) 公表の方針・考え方

大学の運営や教育研究活動等に関する情報を、個人情報の保護等に配慮した上で積極的に公開することにより、社会的説明責任を果たし、公正かつ透明性の高い大学運営と教育研究活動の質的向上を図る。また様々な媒体を活用し、タイムリーに正確且つ分かり易く公表することにより、研究成果等を社会に広く還元する。

2) 公表の方法

Web サイトを中心に、SNS、YouTube 等の動画コンテンツ、刊行物の発刊、講演会の開催など、媒体特性を活かした公表を行うとともに、近年は、プレスリリース等による報道機関を通じた広報活動を積極的に推進している。

<https://www.juntendo.ac.jp/>

<https://www.juntendo.ac.jp/corp/news/letter/>

3) Web サイトによる基本情報の公開

本学における教育研究活動等の状況に関する基本的な情報は、(学) 順天堂 Web サイト上に「基本情報 (基本情報)」として公表している。法人全般の基本情報は総務局総務部文書・広報課が情報管理を行い、教学情報は学事部門にある情報戦略・IR 推進室が情報管理を行い、学校法人として最新情報を正確かつ迅速に発信している。

(掲載 URL <https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information/>)

以下の情報については上記本学 Web サイトの各項目で情報提供している。

(1) 情報公開 (基本情報)

①教育研究上の基礎的な情報：

<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>

「設置学部・大学院の名称等」

https://www.juntendo.ac.jp/assets/name_course.pdf

「学部・大学院の教育研究上の目的」

https://www.juntendo.ac.jp/assets/purpose_edu-res.pdf

「組織図－順天堂組織機構図」

<https://www.juntendo.ac.jp/about/corp/organization/index.html>

「求める教員像および教員組織の編制方針 (順天堂大学・大学院・学部)」

順天堂大学

https://www.juntendo.ac.jp/assets/organ-policy_jun.pdf

大学院

https://www.juntendo.ac.jp/assets/organ-policy_in.pdf

学部

https://www.juntendo.ac.jp/assets/organ-policy_gaku.pdf

「教職員数－教職員数、教員年齢区分」

教職員数

https://www.juntendo.ac.jp/assets/num_fac-staff.pdf

教員年齢区分

https://www.juntendo.ac.jp/assets/teac_age_categ.pdf

「学則（大学・大学院）－順天堂大学学則、順天堂大学大学院学則」

順天堂大学学則

https://www.juntendo.ac.jp/assets/school_rules.pdf

順天堂大学大学院学則

https://www.juntendo.ac.jp/assets/school_rules_in.pdf

「寄附行為－学校法人順天堂寄附行為」

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/d18ba63f14cd364154e2d63ce183aac1.pdf>

「役員名簿－理事・監事紹介、主要役職者・理事・評議員名簿」

理事・監事紹介

<https://www.juntendo.ac.jp/about/corp/officer/index.html>

主要役職者・理事・評議員名簿

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/4e938f9e5612116ff4486a34ee9b6018.pdf>

「役員報酬等の支給の基準－学校法人順天堂役員報酬及び役員退職金支給規程」

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/589b6b9545d4a3410422628e056226f0.pdf>

②各キャンパスの教育研究施設：

「教育研究等環境の整備に関する方針」

https://www.juntendo.ac.jp/assets/kankyouseibi.houshin_R4.01.pdf

「建物耐震性能（耐震化率）」

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/taishinkaritsu.pdf>

「各キャンパスの教育研究施設配置図」

本郷・お茶の水キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/about/establish/index.html>

さくらキャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hss/about/facility/index.html>

浦安キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/nurs/about/facility/index.html>

三島キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hsn/about/facility/>

浦安・日の出キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ms/about/facility/>

「主な交通手段」

本郷・お茶の水キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/access/index.html>

さくらキャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hss/access/access/index.html>

浦安キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/access/#anc03>

三島キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/access/#anc04>

浦安・日の出キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/access/#anc05>

「学術メディアセンター情報」

https://www.juntendo.ac.jp/assets/MediaCenter_Info.pdf

本郷・お茶の水キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/about/org/library/hongou/>

さくらキャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/about/org/library/sakura/>

浦安キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/about/org/library/urayasu/index.html>

三島キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/about/org/library/mishima/index.html>

浦安・日の出キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/about/org/library/hinode/index.html>

③授業料・入学金等学生が納付する金額：

「授業料等納付金－2023年度授業料等納付金」

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/gakunokin.pdf>

「入学試験検定料（大学院 入学案内・募集要項）」

医学研究科修士課程（医科学専攻）

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/med/master/boshuyoko/>

医学研究科博士課程（医学専攻）

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/med/doctoral/boshuyoko/>

スポーツ健康科学研究科博士前期課程・博士後期課程

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/hss/master/yoko/>

医療看護学研究科博士前期課程

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/nurs/exam/>

医療看護学研究科博士後期課程

https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/nurs/exam_d/

保健医療学研究科修士課程

<https://www.juntendo.ac.jp/news/03219.html>

「入学試験検定料（学部 入学案内・募集要項）」

医学部

https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/med/exam_info/

スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/hss/outline/>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/nurs/outline/>

保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/hsn/examinfo/>

国際教養学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/ila/outline/>

保健医療学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/hs/information/>

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/ms/outline/>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/hds/outline/>

「入学金・学費等（大学院）」

医学研究科修士課程（医科学専攻）

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/med/master/fees/>

医学研究科博士課程（医学専攻）

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/med/doctoral/fees/>

スポーツ健康科学研究科博士前期課程

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/hss/master/yoko/index.html#anc10>

スポーツ健康科学研究科博士後期課程

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/hss/doctor/#anc10>

医療看護学研究科博士前期課程

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/nurs/exam/>

医療看護学研究科博士後期課程

https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/nurs/exam_d/

保健医療学研究科修士課程

<https://www.juntendo.ac.jp/news/03219.html>

「入学金・学費等（学部）」

医学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/med/>

スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hss/>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/nurs/>

保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hsn/>

国際教養学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/ila/>

保健医療学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hs/>

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/ms/>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hds/>

(2) 基本情報（情報公開）修学上の情報

①教員組織、各教員が有する学位及び業績：

「大学院」

医学研究科

https://www.juntendo.ac.jp/assets/degr-achi_med.pdf

スポーツ健康科学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/staff/>

医療看護学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/staff/>

保健医療学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hs/staff/>

「学部」

医学部

https://www.juntendo.ac.jp/assets/degr-achi_med.pdf

スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hss/staff/>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/nurs/staff/>

保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hsn/staff/>

国際教養学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ila/staff/>

保健医療学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hs/staff/>

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ms/staff/>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hds/staff/>

「研究者情報データベースー順天堂大学研究者情報データベース、researchmap」

- ・順天堂大学研究者情報データベースの掲載 URL :

<https://www.juntendo.ac.jp/graduate/kenkyudb/>

各教員の学位や教育・研究業績については、データベース化し、詳細に情報収集を行い、「順天堂大学研究者情報データベース」を稼働している。このデータベースの情報提供項目は、学歴、取得学位、学外活動、現在の研究課題、所属学会・委員会等のプロフィール、著書・論文、受賞学術賞及び著書・論文以外の業績の研究業績と教育実績であり、教員自身が Web サイト上で随時自由に業績情報を更新し、これを蓄積することが可能である。本学の教育研究業績情報は情報量として豊富で精度も一段と向上している。同内容は、本学 Web サイトで公表されており、常時閲覧可能である。

- ・順天堂大学学術情報リポジトリの掲載 URL :

http://library.med.juntendo.ac.jp/il4/meta_pub/G0000002gakui

本学及び本学構成員の教育・研究成果に関する学術情報については、それらを学内外に公開する「機関リポジトリ」として、「順天堂大学学術情報リポジトリ」を Web サイトで公開している。本学教員が教育・研究に係わる成果物を容易に利用できる環境を提供するとともに、本学の教育・研究内容及びその成果を広く世界に発信することを目的としている。同サイトでは、ア) 研究報告、イ) 学術論文、ウ) 学位論文（博士論文）、エ) 順天堂醫事雑誌、オ) その他の教育研究成果等が公開されている。

- ②学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 :

「3つのポリシー策定の基本方針」

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/3policy.pdf>

「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」

順天堂大学

https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_jun.pdf

大学院

https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_in.pdf

学部

https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_gaku.pdf

「アセスメント・プラン（評価の方針）」

順天堂大学

https://www.juntendo.ac.jp/assets/assessment-plan_jun.pdf

大学院

https://www.juntendo.ac.jp/assets/assessment-plan_in.pdf

学部

https://www.juntendo.ac.jp/assets/assessment-plan_gaku.pdf

「学修の成果に係る評価と卒業又は修了の認定に当たっての基準」

医学研究科修士課程医科学専攻

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/med/master/curriculum/>

医学研究科博士課程医学専攻

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/med/doctor/curriculum/>

スポーツ健康科学研究科博士前期課程

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/master/curriculum/>

スポーツ健康科学研究科博士後期課程

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/doctor/curriculum/>

医療看護学研究科博士前期課程

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/master/about/>

医療看護学研究科博士後期課程

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/doctor/about/>

保健医療学研究科修士課程

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/70c7c1abad92168b5942e9530ff7a0d9.pdf>

医学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/med/education/curriculum/>

スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hss/education/curriculum/index.html>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/nurs/education/syllabus/index.html>

保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hsn/education/syllabus/>
国際教養学部

https://www.juntendo.ac.jp/assets/eva-cert_criteria_int-edu.pdf
保健医療学部

https://www.juntendo.ac.jp/assets/hoken-iryo_0000-3-1_tebiki.pdf
医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ms/education/syllabus/>
健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hds/education/syllabus/>

③授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画：

「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

順天堂大学

https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_jun.pdf
大学院

https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_in.pdf
学部

https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_gaku.pdf

「授業科目、年間授業計画（シラバス等）」

医学研究科修士課程医科学専攻

<https://mr-syllabus.juntendo.ac.jp/>

医学研究科博士課程医学専攻

<https://dr-syllabus.juntendo.ac.jp/>

スポーツ健康科学研究科博士前期課程

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/master/curriculum/>
スポーツ健康科学研究科 博士後期課程

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/doctor/curriculum/>
医療看護学研究科 博士前期課程 (M)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/pamphlet/pamphlet/index.html>
医療看護学研究科 博士後期課程 (D)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/pamphlet/pamphlet/index.html>
保健医療学研究科 修士課程

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/70c7c1abad92168b5942e9530ff7a0d9.pdf>
医学部

<https://med.juntendo.ac.jp/syllabus/2023/index.html>

スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hss/education/curriculum/index.html>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/nurs/education/syllabus/index.html>

保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hsn/education/syllabus/index.html>

国際教養学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ila/education/curriculum/index.html>

保健医療学部

理学療法学科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hs/pt/curriculum/>

診療放射線学科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hs/rt/curriculum/>

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ms/education/syllabus/>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hds/education/syllabus/>

「単位の履修登録制限」

https://www.juntendo.ac.jp/assets/tani_jogen.pdf

「実務経験のある教員等による授業科目」

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/120753882dd76223b506cc575e30c0c7.pdf>

「高等教育の修学支援新制度の機関要件更新確認申請書－機関要件の更新確認申請書様式第2号」

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/41facb9364d7e95fd7458ec6514d7c9b.pdf>

④入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学・就職者数：

「アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）」

順天堂大学

https://www.juntendo.ac.jp/assets/ad_policy_jun.pdf

大学院

https://www.juntendo.ac.jp/assets/ad_policy_in.pdf

学部

https://www.juntendo.ac.jp/assets/ad_policy_gaku.pdf

「入学者数・収容定員・在学者数」

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/capacity.pdf>

「入試結果－学部、大学院」

学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/result/>

大学院

https://www.juntendo.ac.jp/assets/result_exam_in.pdf

「卒業（修了）者数」

https://www.juntendo.ac.jp/assets/graduate_acquirer.pdf

「進学者数・就職者数」

https://www.juntendo.ac.jp/assets/emp_info.pdf

「資格取得実績等-資格取得・試験合格実績等」

https://www.juntendo.ac.jp/assets/qual_achie.pdf

⑤学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援：

「学生の支援に関する方針-学生の支援に関する方針・障がいのある学生の支援に関する基本方針」

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/shien-houshin.pdf>

https://www.juntendo.ac.jp/assets/shien_hoshin_R5.pdf

「学生の修学支援」

医学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/med/about/scholarship/>

スポーツ健康科学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/hss/master/yoko/index.html#anc12>

医療看護学研究科

https://www.juntendo.ac.jp/assets/stu-sup_med-nurs.pdf

保健医療学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/9413356575bbd178ad201bf7555458ff.pdf>

医学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/med/life/scholarship/>

スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hss/>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/nurs/index.html>

保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hsn/index.html>

国際教養学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/ilAIndex.html>

保健医療学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hs/index.html>

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/ms/>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hds/>

「学生の進路選択支援」

医学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/med/master/about/>

スポーツ健康科学研究科 博士前期課程(M)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/master/about/>

スポーツ健康科学研究科 博士後期課程(D)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/doctor/about/>

医療看護学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/master/about/>

保健医療学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/news/03219.html>

医学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/med/qualification/career/>

スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hss/career/support/>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/nurs/education/career/>

保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hsn/qualification/support/>

国際教養学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ila/career/support/index.html>

保健医療学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hs/career/support/>

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ms/qualification/support/>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hds/folder/careerdesign/>

「学生の心身の健康等に係る支援」

医学研究科

健康管理・健康相談

<https://www.juntendo.ac.jp/life/support/med/consultation/>

学生相談室

https://www.juntendo.ac.jp/life/support/med/consultation_copy/

スポーツ健康科学研究科

健康管理・健康相談

<https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hss/consultation/>

学生相談室

https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hss/consultation_copy/

医療看護学研究科

健康管理・健康相談

<https://www.juntendo.ac.jp/life/support/nurs/consultation/>

学生相談室

https://www.juntendo.ac.jp/life/support/nurs/consultation_copy/index.html

保健医療学研究科

健康管理・健康相談

<https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hs/consultation/index.html>

学生相談室

https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hs/consultation_copy/index.html

医学部

健康管理・健康相談

<https://www.juntendo.ac.jp/life/support/med/consultation/>

学生相談室

https://www.juntendo.ac.jp/life/support/med/consultation_copy/

スポーツ健康科学部

健康管理・健康相談

<https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hss/consultation/>

学生相談室

https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hss/consultation_copy/

医療看護学部

健康管理・健康相談

<https://www.juntendo.ac.jp/life/support/nurs/consultation/>

学生相談室

https://www.juntendo.ac.jp/life/support/nurs/consultation_copy/index.html

保健看護学部

健康管理・健康相談

<https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hsn/consultation/>

学生相談室

<https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hsn/consultation/>

国際教養学部

健康管理・健康相談

<https://www.juntendo.ac.jp/life/support/ila/consultation/index.html>

学生相談室

https://www.juntendo.ac.jp/life/support/ila/consultation_copy/

保健医療学部

健康管理・健康相談

<https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hs/consultation/index.html>

学生相談室

https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hs/consultation_copy/index.html

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ms/support/life/index.html>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hds/support/life/>

「在学生（新入生/上級生）・最終学年アンケート調査結果」

<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/questionnaire/index.html>

「学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」

https://www.juntendo.ac.jp/assets/knowledge_info.pdf

⑥学生の状況（入学者推移、退学・除籍者数・中退率・留年者数、国際交流情報）：

「学生に関する情報－学生の状況（入学者推移、退学・除籍者数・中退率・留年者数、国際交流情報）」

https://www.juntendo.ac.jp/assets/State_Stud.pdf

⑦その他の情報（産学官連携等）：

「社会連携・社会貢献に関する方針」

https://www.juntendo.ac.jp/assets/shakai-renkei,kouken_R04.05.pdf

「動物実験等に関する情報公開」

「大学協力協定締結状況（海外研究機関）－国際交流活動」

https://www.juntendo.ac.jp/assets/report_kokusai-koryu.pdf

「順天堂大学における大学間連携－大学間連携一覧、順天堂大学における主な大学間連携」

https://www.juntendo.ac.jp/assets/report_daigakukanrenkei.R4.08.pdf

「順天堂における社会貢献－イベント・講演会、活動報告、地域連携、高大連

携」

活動報告

<https://www.juntendo.ac.jp/sustainability/>

地域連携

https://www.juntendo.ac.jp/assets/report_chiiki-renkei_R4.08.pdf

高大連携

https://www.juntendo.ac.jp/assets/report_koudai-renkei_R4.08.pdf

「産学官連携に関する取組－規程、順天堂大学産学官研究連携推進室組織体制、順天堂大学における産学官連携情報（特許出願状況）、共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座一覧、民間企業・外部機関連携」

知的財産取扱規程

https://www.juntendo.ac.jp/assets/chiteki-zaisan_kitei_201711.pdf

成果有体物取扱規程

https://www.juntendo.ac.jp/assets/seika-yutai_kitei.pdf

順天堂大学利益相反マネジメント規程

https://www.juntendo.ac.jp/assets/rieki-management_R030701.pdf

順天堂大学医学系研究利益相反マネジメント規程

https://www.juntendo.ac.jp/assets/rieki-management_medicine_R030701.pdf

順天堂大学産学官研究連携推進室組織体制

https://www.juntendo.ac.jp/assets/sangakukan_soshiki-taisei.pdf

順天堂大学における産学官連携情報（特許出願状況）

<https://www.juntendo.ac.jp/research/collaboration/situation/index.html>

共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座一覧

<https://www.juntendo.ac.jp/research/collaboration/kyodokenkyukouza/index.html>

民間企業・外部機関連携

https://www.juntendo.ac.jp/assets/report_minkan.gaibu-renkei_R4.08.pdf

「特許支援リンク先（全国の支援・助成機関、政府機関）」

JSPS：（独）日本学術振興会

<https://www.jsps.go.jp/>

JST：（国研）科学技術振興機構

<https://www.jst.go.jp/>

NEDO：（国研）新エネルギー・産業技術総合開発機構

<https://www.nedo.go.jp/>

VEC：（財）ベンチャーエンタープライズセンター

<https://www.vec.or.jp/>

文部科学省

<https://www.mext.go.jp/>

経済産業省

<https://www.meti.go.jp/index.html>

特許庁

<https://www.jpo.go.jp/index.html>

特許庁・特許情報プラットフォーム

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/>

(3) 基本情報（情報公開）財務情報：

「財務情報（令和4年度）」

(4) 格付

「格付投資情報センター（R&I）による格付

https://www.juntendo.ac.jp/assets/news_release_cfp_20230323_jpn.pdf

(5) 事業報告：

「順天堂大学ガバナンス・コード、順天堂大学ガバナンス・コード遵守状況、事業報告書」

(6) 設置計画履行状況報告書

4) Web サイト、SNS、プレスリリースの積極的活用

(1) オウンドメディア

2つのオウンドメディア（「CO-CORE」，「JUNTENDO SPORTS」）を統合し、新たなオウンドメディアとして「Good Health Journal」(*1)を開設して、順天堂が180年余にわたり蓄積してきたナレッジを発信し、全ての人に「よりよい健康」を考えるきっかけを創出するWebサイトとして運営している。SDG3（目標3「すべての人に健康と福祉を」を通じて、世界が抱えるあらゆる課題に挑む）、SPORTS+（スポーツの順天堂が誇るアスリートや専門家の活躍からスポーツ分野の最先端を知る）、SPIRIT（常に他人を思いやり、理解し、敬う「仁」の精神を原動力に活躍する順天堂人に学ぶ）を軸に特徴ある記事を多数発信している。

(*1) <https://goodhealth.juntendo.ac.jp>

(2) SNS

学校法人順天堂として、Facebook、Twitter、LINE、YouTube、Instagramにアカウントを持ち、積極的に活用している。特にYouTubeを活用した動画・映像による広報展開に注力している。順天堂ならではの「自宅でできる運動プログラム」「心臓リハビリ」「医療で用いるやさしい日本語」「アスリートトーク」「研

究ブランディング事業」等のコンテンツを充実させ、動画本数は120本を超える。現在の公式チャンネル登録者数は1.6万人を超え、全国大学のチャンネル登録者数トップ10に位置しており、有効な広報ツールとして運営している。

(3) プレスリリース

広く社会に情報公開し、研究成果の社会還元を実現する観点から積極的にプレスリリースを行っている。本学の医学・医療系リリースは、研究成果を中心に毎年増加しており、発信数は全国大学でトップクラスにある。

5) 定期的に刊行している発行物

(1) 事業報告書の作成

本学の各年度の事業内容について年度毎に取りまとめ「事業報告書」として作成し、学内の各地区で説明を行うとともに、学内外関係者向けにWebサイト上で公表している。

(2) 大学案内の発行

毎年度、大学案内を発行している。学是・理念・学風、大学院研究科・専攻及び学部・学科の概要、教育・研究活動の特色、医学部附属病院の概要、主な施設・設備、学生のキャンパスライフ、その他のトピックス等、大学に関する情報を詳細且つ体系的に公表し、これらの情報を本大学ホームページにも掲載している。

(3) 広報誌の発行

学内向け広報誌として「順天堂ニュース」を月次及び必要に応じて臨時に発行し、学内各部署に配布するとともに、学内ポータルサイト上でも閲覧を可能としている。

また法人運営、大学院研究科、学部及び医学部附属病院の活動や取組内容等について年6回「順天堂だより」を刊行し、本学教職員、学生、学生保護者、卒業生、関係教育研究機関等へ配布するとともに、Webサイト上で公開している。(毎号：約10,000部発行)

海外向け広報の一環として、グローバル広報誌「Juntendo NEWS」を英文・中文の二言語で作成し、それぞれ英語版・中国語版Webサイト上で公開している。

(4) 順天堂醫事雑誌の発行 (JUNTENDO MEDICAL JOURNAL)

1875年創刊の順天堂醫事雑誌は、順天堂医学会が年6回発行する査読済みの医学雑誌である。2014年以降は英文誌となり、学内外から投稿される基礎・臨床医学分

野の他、スポーツ医学などの研究成果を、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナルプラットフォーム「科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）」でオンラインジャーナルとして公開している。印刷誌は約350部を学内教職員をはじめ、他大学図書館などに配布している。

6) 講演会・公開講座等の開催

大学院研究科・学部・医学部附属病院が主催する講演会及び公開講座を開催している。教育・研究及び臨床活動についての最新の情報を、新型コロナウイルス感染拡大期間中ではオンライン配信も活用しながら広く提供している。

15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1) 本学では、研究・教育に関して全学に共通する事項を審議することを目的として学長を議長とする大学協議会を設置している。大学協議会は全学的な教育施策の企画及び教育活動の継続的な改善の推進と支援に取り組んでおり、各部門（大学院研究科・学部）の特性に応じたFD支援として、教育課程の編成に係る全学的な方針の審議や教員の教育内容・授業方法の改善についての検討を行っている。

平成25年度には全学FDテーマとして中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(2012年8月28日)についての理解を促すため、平成25年9月12日に本学学長(現学長特別補佐)が本学の現状と今後の取組に関する講演を行ない、同年11月22日に納谷廣美大学基準協会特別顧問から講演を受けた。その後主な研修として平成28年7月22日には、大学設置基準等の改正(平成29年4月1日)によりSDが義務されることから、大学職員としての業務を自己点検し、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営が図れるように、必要な知識及び技能を習得、その能力及び資質を向上させるため「高大接続改革について」濱口太久未文部科学省高等教育局主任大学改革官から講演を受け、平成30年11月30日には、沖大幹国際連合大学上級副学長から、「SDGsをどう大学経営に生かすのか」、令和元年11月29日には小林直人愛媛大学学長特別補佐から「大学職員としてアクティブラーナーになる」の講演を受け、令和2年度には、アフターコロナ・ウィズコロナ時代を思案し、金子浩明グロービス経営大学院教授から「①医療の高度化への対応、②医療・保健・健康・スポーツの総合的な価値提案、③これらを推進するための教育基盤強化」について講演を受け、大学職員がこれからの大学改革へ向け、どのように業務にあたるべきかを検証するために、教員及び職員が出席した。

平成25年以降、以下の通り研修を開催し、教員及び職員が出席し、学長主導のFD

体制に基づき授業内容方法等の改善に向けての意識の共有化を図っている。

	年 月 日	演題及び演者
第1回	平成25年9月12日	文科省「大学改革実行プラン」、とくに大学教育の質的転換について 木南英紀（前学長・現学長特別補佐）
第2回	平成25年11月22日	中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」 納谷廣美氏（大学基準協会特別顧問（前会長）、明治大学学事顧問（前学長））
第3回	平成27年3月27日	大学のガバナンス改革の推進～学校教育法改正に伴う学則の変更等について～ 木南英紀（前学長・現学長特別補佐）
第4回	平成27年11月5日	大学教育の質の保証について 村田直樹氏（文部科学省大臣官房付・桜美林大学大学院特任教授）
第5回	平成28年7月22日	高大接続改革について 濱口太久未氏（文部科学省高等教育局主任大学改革官）
第6回	平成29年12月4日	大学力の強化とその評価について 山本進一氏（名古屋大学名誉教授・岡山大学名誉教授）
第7回	平成30年11月30日	SDGsをどう大学経営に生かすのか 沖 大幹氏（国際連合大学上級副学長、国際連合事務次長補、東京大学総長特別参与、国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構教授）
第8回	令和元年11月29日	大学職員としてアクティブラーナーになる 小林 直人氏（愛媛大学学長特別補佐、教育学生支援機構副機構長、教育企画室長、医学部・総合医学教育センター長、教授）
第9回	令和2年度 (6/24, 7/8, 7/31, 8/21)	①医療の高度化への対応、②医療・保健・健康・スポーツの総合的な価値提案、③これらを推進するための教育基盤強化」について 金子 浩明氏（グロービス経営大学院教授）
第10回	令和3年9月8日	新しい「世界」を“まとめる、率いる、飛び立つ女性力” 向井千秋氏（東京理科大学特任副学長）
第11回	令和4年11月5日	研究環境のダイバーシティー実現に向けて～科学技術・学術分野における女性の活躍促進～ 橋爪 淳氏（文部科学省科学技術・学術政策人材政策課 課長）

上記の他、職員の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営が図れるよう、必要な知識を修得させるとともに、その能力及び資質を向上させるための研修（スタッフ・ディベ

ロップメント(SD))を人事部が中心となり、設置形態の異なる大学と、共同SD研修を平成26年から継続実施している。(新型コロナ感染拡大により令和2年度は中止)

	年 月 日	研修テーマ
第1回	平成26年12月12日	大学における研究倫理をめぐる動向
第2回	平成27年8月25日	管理職(部課長)研修
第3回	平成28年8月23日	女性管理職共同研修
第4回	平成29年8月31日	係長・中堅職員研修(部下・後輩への指導力養成研修)
第5回	平成30年8月29日	事務職員フォローアップ研修(入職3～5年程度の事務職員)
第6回	令和元年8月28日	大学法人に関する会計・経営の基礎を学ぶ
第7回	令和3年8月31日	オーナーシップ研修
第8回	令和4年8月25日	新任係長研修

また、人事部では、法人全ての職員を対象とした幹部職員、その他役職者を対象とするSD研修を実施し、各部門が実施するSD研修のほか、外部団体が企画する目的別SD研修なども活用し、全法人及び部門単位でのFD・SD活動を実施している。

(2) 各学部・各大学院研究科において、FD委員会(FD推進委員会)を設置し、教員の教育研究に係る資質の向上を図り、教育内容及び授業方法等の改善に継続的に取り組んでいる。

本研究科においても次のような取組を行っていく。

①FD研修会の開催

全ての専任教員が一同に会するFD研修会を年1～2回開催し、大学の教育改革に詳しい学外専門家を招いて講演会を開催し、FD活動の推進につながる知識情報の獲得等を図る。

②FDワークショップの開催

FDワークショップを年1～2回開催し、教員や外部講師による教育方法の実践報告や授業方法の改善・工夫に関する新たな提言等を行い、グループワークによる協議を行う。協議内容について事後アンケートへの回答を求め、大学院検討委員会に集約する。

③シラバスの整備

学生の履修指導に効果が上がるように毎年度シラバスを作成し、効果的に活用する。大学院検討委員会が中心となりシラバスの記載内容を点検する。授業担当教

員は毎年度各自のシラバス内容の実践と評価を実施し、大学院検討委員会の意見を参照にしながらシラバス記載内容を吟味したうえで作成する。シラバスには授業科目の概要、ナンバリング、ディプロマ・ポリシーとの関連、到達目標、講義内容、授業方法、予習・復習、成績評価の方法と基準、教科書及び参考図書等を記載する。

④授業評価

授業内容の改善を図るために「学生による授業評価アンケート調査」を毎回の授業毎又は学期毎に実施し、集計結果を大学院検討委員会に報告する。大学院検討委員会は評価結果内容について精査を行い、課題、問題点を調査分析し、研究科委員会に報告するとともに、改善提案を行う。授業評価結果については担当教員にフィードバックし、改善を要する場合には速やかに研究科長より当該教員に対し改善のための指導を行なう。将来的には、各教員が自分の担当する科目の成績評価と他の教員担当科目の評価を容易に比較し、教員が自らの授業の客観評価を行うことが可能となるように授業評価アンケートの集計結果等を Web サイト上で公開することを検討する。

⑤教育研究活動の公表

教員の研究活動、研究会への参加、対外的に公表された研究成果、学会における活動状況、公共機関における社会的な活動状況等を Web サイト上に「研究者情報データベース」として公表する。

また、研究組織毎にも諸活動の情報を集約し、ホームページで公表している。

(<https://www.juntendo.ac.jp/university/research/organization.html>)

本学では定期的に「順天堂醫事雑誌 (Juntendo Medical Journal)」を刊行しているほか、保健医療学部の紀要として「順天堂保健医療学雑誌」も刊行している。教員の研究活動成果を発表するツールとして活用する。

(3) 教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るための大学職員の研修等の取組

本学の事業運営に当たってその基盤となる専任職員の育成及び能力開発については、人事部を中心に取り組んでいる。役職別実務研修（評価者研修、マネジメント研修、主任・係長・部課長別研修等）及び課題別研修（女性職員活性化研修、SD 英語研修等）を継続的に開催し、職員の能力向上を図っている。

選抜制階層別研修の他に、e ラーニングにて技術・技能のスキルアップ、資格取得のためのステップアップ等自己の目標に合わせて選択できるよう多様なコースを提供し、希望者全員が自発的にスキルアップを図れる環境を設けている。

グローバル化への対応として学内英語研修に加え、海外研修を実施している。平成 30 年 1 月にアメリカに 6 名教職員を派遣し、アメリカの病院経営と医療テクノロ

ジーに関し最新情勢を体験した。また、平成 31 年 9 月、日本私立医科大学協会主催の海外研修に参加（概ね 2 年に 1 回開催、本学から 2～5 名参加）し、医師 4 名、事務職員 3 名を派遣し、アメリカの医療の現況を視察・調査した。その後は新型コロナ感染拡大により中断している。